

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」第2回選定地区訪問

「株式会社 ^{そうわ}早和果樹園」（和歌山県有田市）

※近畿ブロック選定1位

平成28年1月18日、第2回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定された和歌山県有田市の「株式会社 早和果樹園」を訪問し、代表取締役である秋竹社長から、活動の概要や今後の取組などについてお聞きしました。以下にその内容を紹介します。

（活動概要）

○有田みかんの6次産業化による地域活性化

（株）早和果樹園では、早くからICT農業の活用による高品質みかん生産や、ジュース等加工による高付加価値商品販売等に取り組み、香港、シンガポール、台湾、EU諸国等への輸出も行われています。また、周辺農家から加工用みかんを平均相場よりも高値で買取り、農家の所得向上にも寄与しているほか、常時雇用に加えみかんの収穫期の臨時雇用から、中山間地域における雇用創出にも貢献しています。近年では、地域の高齢者女性の能力を活用する場として子会社を設立するなど、有田みかん産地のリーディング・カンパニーとして更なる事業展開とこれを通じた地域の発展に貢献されています。



有田みかんの商品

○会社設立の経緯、運営状況等について

昭和54年に、7家族のみかん農家で早和共撰組合を創業したのが始まりです。当時はみかんを栽培し出荷するだけで、自ら加工し販売することなど全く頭にありませんでしたが、「みかんの生産では生き残れない。」と考え、早和共撰組合を法人化し、4人の若い後継者が育ちました。

法人経営では、うめ農家が加工販売まで含めた6次産業化が進んでいたことから、みかんでも加工販売まで取り組めないかと、ジュースを搾って東京の築地市場に持ち込みましたが、農産加工品は受け付けてくれませんでした。

このような中、アグリビジネス投資育成(株)の出資を受け、加工商品の開発・販売を開始すると同時に、時期を同じくして、和歌山県庁にブランド推進の部署が設置され、東京に和歌山県のアンテナショップが出店されることとなり、高級有田みかんジュース「味一しぼり」を置かせてもらいました。知事からの評価も得られ、アンテナショップでの月間

売上ランキング1位が続き、雑誌やテレビでも紹介され始め、売上も増加しました。また、年間7～8回は東京ビックサイト等で開催される商談会やイベントに出展し、試飲してもらい販路を広げてきました。

経営が軌道に乗り始めたことで事業規模の拡大に伴い経営を分業化し、「生産」、「加工」、「営業」、「総務」の4つの部門を立ち上げ4人の後継者をそれぞれの部門の責任者としました。その結果、今ではシンガポール等海外へも営業に行き、販路拡大を展開するまでになりました。

現在自社のみかん栽培面積は6.5ha（全て露地栽培）まで拡大してきましたが、加工用みかんが不足するため、周辺農家から共撰出荷より高値で買い付けを行っています。さらに各地域の共撰からも購入しています。また、以前は、大手企業へ搾汁原料の提供も行っていたのですが、自社開発に全て切り替え、自社で取り扱うみかんの加工製品は全27アイテムとなっています。これまで搾汁は缶詰工場に依頼していましたが、新たに搾汁工場を建設し、平成27年11月から自社で搾汁も始めました。搾汁した原料は3年間は保存が可能であるため、一斗缶につめて保管し、果汁をブレンドして味の均質化と安定した製品の供給に努めています。



商談会（アグリフード EXPO）での試飲の様子

○地域の活性化について

一昨年は5人、昨年は4人、今春も4人（内定）の新卒大学生を継続して雇用しています。最近では、農業関連企業が集まる就活セミナーではなく、一般企業が集まる就活セミナー等で他業種企業に混じってブースを設けていますが、昨年の就活セミナーでは、一般企業を凌ぐ37名の学生が会社の説明を受けに来られ驚いています。これまでの採用者は地元回帰志向のある県内出身者が多く、なにより若い人が地域に帰ってくると年寄りも元気になります。

現在正社員36名、常勤パート17名の計53人に、繁忙期では主婦やシルバー人材から60名程臨時雇用しており、中山間地域における雇用の受け皿も担っています。

また、平成27年3月3日に共撰組合に携わった7戸のシニア女性達による子会社「(株)早和なでしこ」を設立しました。主な業務内容は、早和果樹園のサポートのほか、売店ショップの経営、薬品会社と契約して搾汁後の



加工作業に励む早和なでしこメンバー

皮を乾燥させた商品の企画などを行っています。今は早和果樹園の社内食堂の経営を構想するなど、高齢者が笑顔で働ける環境を整え、常に課題を持ち、「やりがい」や「いきがい」にもつながっています。

○ディスカバー農山漁村の宝の影響について

官邸に招かれて祝賀して頂いた時、「味一しぼり」を飲んで「これはうまいな」といって頂きました。また、受賞で頂いた「ディスカバー農山漁村の宝」ののぼりは売店ショップ入り口に立てて宣伝しています。昨年は6次産業化優良事例の農林水産大臣賞を受賞し、今回はディスカバー農山漁村の宝に選定され、とにかく視察（多いときは月数回）が増えました。海外からも視察にきます。また、講演依頼も多くなりました。会社や自社製品を知ってもらい良い機会ととらえて、積極的に



秋竹 代表取締役社長
(売店ショップ前で)

に依頼は受入れています。これまで取り組んできた活動が評価され、表彰を受けたことによる最大の効果は、役員をはじめとする社員の士気が向上したことです。

○今後の事業展開等について

生食用のみかんは、東京・新潟の市場向けに農協（JAありだ共撰協議会）を通して早和果樹園のみかんとして出荷しています。地域には現在も14共撰が存在し、株式会社でJAに出荷しているのは自社だけですが、JAとは今後も連携して協力していければと考えています。また、自社で品種改良した、生食用でも加工原料でも品質の良いみかんの新品種「早和の香（そうわのかおり）」を平成28年度から展開させて広く認知させていきたいと考えています。

平成27年6月末の売上は6億8千万円であり、6次産業化による加工製品の販売で伸びてきていることから、今後も加工製品を柱に事業展開を行う一方、生食用は本当に良いものだけを販売することとしています。自社ブランドのまるどりみかん（マルドリ方式で栽培した高品質のみかん）は東京の高級果物店に2.0キロ4,800円で販売されています。

近畿中国四国農業研究センターの実証試験としてマルドリ方式（マルチシート被覆＋点滴かんがい（ドリップチューブ）を組み合わせた柑橘栽培技術）を導入したきっかけで、品質の良いみかんができますが、中山間地で水源がなく、設備投資も手間もかかるため、周辺農家への普及には至っていないのが現状です。

会社経営は、次の世代（4人の後継者）に引き継がれることが予定されていますが、高齢化でみかん生産者が減って産地全体が弱くなり、みかんの原料確保も難しくなりつつあ

ります。みかん産地として発展していくことが地域を活性化させることになるため、地域に還元できる事業展開に取り組んでいます。



早和果樹園の社員の皆さん

訪問日時：平成 28 年 1 月 18 日 13:30～15:30

対応者：代表取締役社長 秋竹新吾

訪問者：茂木地方参事官、松岡補佐、野村係長

※「ディスカバー農山漁村の宝」に関する問い合わせ先 TEL:075-414-9050

近畿農政局農村振興部農村計画課 松岡、野村まで

※「株式会社 早和果樹園」に関する問い合わせ先 TEL:0737-88-7279

農業生産法人 株式会社早和果樹園 代表取締役社長 秋竹新吾まで